

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE京都-新築(2015年版) | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2015 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)下京区西七条東御前田町計画	階数	地上7F
建設地	下京区西七条東御前田町39番1(一部)、西七条東御前田町52番1	構造	RC造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	372人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2017年12月8日
敷地面積	3,451 m ²	作成者	株式会社アクセス都市設計 蘆田 圭介
建築面積	1,050 m ²	確認日	2017年12月11日
延床面積	7,446 m ²	確認者	株式会社アクセス都市設計 湯浅 勝也



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.6

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		その他
総合 躯体材料の耐用年数や、空調・給排水配管の更新必要間隔が長くなるように配慮した。 住戸は、品確法 断熱等性能等級4相当の外気性能とし、太陽光発電やエネファームを採用し、地域環境および周辺環境への配慮を行った。		
Q1 室内環境 内装の仕上げにはF☆☆☆☆を採用し、化学物質の発生に配慮した。 共用部(集会室)には光を多く取り入れるよう配慮した。 専有部は、品確法 断熱等性能等級4相当の外気性能とし	Q2 サービス性能 内装の仕上げにはF☆☆☆☆を採用し、化学物質の発生に配慮した。 共用部(集会室)には光を多く取り入れるよう配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) シンボルツリーや緑地を道路に面する敷地角に配置し、南側路沿いには生垣や低木を配置した
LR1 エネルギー 太陽光発電やエネファームを採用し、設備システムの高効率化に努めた。	LR2 資源・マテリアル ノンフロン断熱材を採用し、汚染物質含有材料の使用回避に配慮した。	LR3 敷地外環境 自転車スペースを適正に確保し、地域インフラへの負荷抑制に努めた。 屋外広告物はなく、光害の抑制に努めた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される